

02
19

因幡志

筆記之部 九

因幡志卷之

筆記之部



因府侍醫安陪惟魏恭庵編

氣多郡草屋長九衛門

一通

丸山伊豆

一通

當町小西吉右衛門

一通

池田日向

一通

玉川彌一丸衛門

二通

氣多郡鹿奴町人草屋惠助

一通

同町人三田屋甚五郎

一通

朝鮮吐安同知兼舟

朝鮮西島監然將 吐安同知騎

起船尾見盛稻
又販古郷思農時

朝鮮人十一人騎名如左

三品堂上

安同知

金烏僧將釋氏

憲判事

進士軍官

李禪將

帶章

金禪將

金沙工

文格卓

加 之 極	王 命 亂 之
-------------	------------------

此一牧 文字漫滅シ テシエス	館 東 八 百 里
----------------------	-----------------------

竹 林 卧 之	於 化 聖 恩
------------------	------------------

以上

釋氏帶字僧

舟
水
主
ナリ

劉
漢
夫
イ
ミ
シ
ヤ
シ

淡
法
主

習
化
主

律
化
主

三
音
化
主

連珠
門啟

朝鮮花田李進士書

右七枚矢濃紙也文字
大五六寸後一枚八越
前奉書文字六寸十リ

秋來
見月
多啟思

朝鮮花田李進士書

黃中家尾發の奉

一代米邦儀但由斗入信信在涉年貢
米、由代友村尾十之米、由後、
入中不實、由也、永代、世家尾發
賣、後中、但、少、由、換、由、入、國、時
付、由、分、由、入、上、も、那、由、由、以、代、由
成、り、由、尾、九、由、由、も、由、由、由、由、由、由、
為、由、由、由、由、由、

寛文七年

十月廿日

いりま 後ま 五

七年 五

山崎 五〇

少年 五〇

東隣 五

西隣 五

九

九

右ハ青屋村茶屋九浪菰衛門ト云者取持ナリ
 初ノ一卷舟法度リ条目ハ以前船問屋タルキ
 當時ノ領主亀井武藏守殿ヨリ下ワレシ半紙
 ノ巻物也次ニ四スル船驗ハ元禄九年六月五
 日朝鮮人十一人騎ノ船青屋ノ津へ着ケル片
 ノ船驗ノ字シナリ朝齎兩島ハ齎陵寫日本作
 鷺下子山嶋日本作呼松嶋是ナリ其片ノ船長ヲ安同
 知ト呼フ是ハ是ヨリ前彼竹嶋ト云フ嶋ヲ伯
 列米子町人大屋村川両家昔ヨリ彼嶋ヲ持居
 テ毎歲渡海シテ其嶋ヨリ獲ヲ取カヘリケル

カ何シカ竹島ニ朝鮮人來住シテ日本ノ人ヲ
依ラス依之大屋村川ヨリ人ヲ遣シ其島ニ居
ケル朝鮮人二人連飯り鳥取へ訴へケレハ高
草郡湖山ノ書寫ニ放シ置玉フ其内ノ一人ヲ
アソビニヤヤントラヘイトスケルトツ其テ
此度御返シ下サレト云訴訟ニ未リシナリ書
屋へ暫ク逗留シケル中花田季進士ト云者ニ
村人尺紙ヲ出シテ筆跡ヲ所望シケレハ數多
書ケル由次ノ八投ノ墨跡曼ナリ其筆カ至テ
温粹也又次ノ一枚ハ屋鋪ノ賣券狀也年号慶

長二十年ハ則元和元年ニテ其時ノ郡主ハ龜
井豊前守殿ナリ然ルニ其文中ニ少將様御入
國ノ氏ト云ハ何レヲサシタルニヤ龜井殿ヨ
リ以前一國山各家領地ニテ此入國ト云ハ岳
ニクシキヲナリ然レハ龜井武藏守殿少將任
シラレシニヤ未聞之イブカシキ変氏ナリ